

みちのく潮風トレイル Michinoku Coastal Trail

縦断ミニフォーラム 2017/05 in 南三陸

登壇者プロフィール

佐伯 雅視 (さえき まさし)

佐伯牧場 (現在、経営は息子に移譲) / 北根室ランチウェイ代表
北海道の中標津町にて牧場経営の傍ら、ロングトレイル「北根室ランチウェイ」を整備し国内外から注目を浴びている。牧場内には、アート・ギャラリーや宿泊施設が点在し、年間を通して多くの客が訪れる。

「体にやさしく、自然や環境にもやさしい、歩くという行為を通じて北海道を体感してほしい」という思いから2005年にルートの探索を開始。2006年に道を作る会「北根室ランチウェイ」を立上げる。国内外の視察も行い、ほぼ一人で道の整備を実施。キャンプサイトの設置、ツアーの企画、日本ロングトレイルフォーラムの開催、映画「ロングトレイル」の上映会など精力的に活動しながら、「新しい歩く旅のスタイル」を提供している。

<北根室ランチウェイ>
中標津の中心部から北根室の広大な牧場(ランチ)地帯を通り、摩周湖の外輪山をほぼ半周して弟子屈町のJR美留和駅まで、全長71.4kmのロングトレイル。



平井 和也 (ひらい かずや)

NPO 法人 海の自然史研究所 / 南三陸・海のビジターセンター、石巻・川のビジターセンターのセンター長
沖縄にて15年間、自然体験やダイビング、エコツアーをおこなう、同時に自然科学・海洋・環境の研究と教育活動をおこなうNPO 法人海の自然史研究所を立ち上げ運営する。また県が推進する沖縄エコツーリズム推進協議会の事務局を担う。
震災前から、NPOとして南三陸町自然環境活用センターを通してこの地域とつながりがあり、被災した同センター復旧のために活動の主拠点を移す。
現在、そのNPOが運営を担う南三陸・海のビジターセンターと石巻・川のビジターセンターのセンター長。



木村 宏 (きむら ひろし)

NPO 法人日本トレッキング協会理事 / NPO 法人日本ロングトレイル協会常務理事 / NPO 法人信越トレイルクラブ理事
大学卒業後リゾート開発、ホテル経営会社の勤務を経て、長野県に移住、自らの宿泊施設の経営後、日本型DMOの先駆けとなる信州いいやま観光局の運営を実践。グリーンツーリズム、公共施設運営、着地型商品の造成、観光まちづくり事業に関わる。新幹線飯山駅構内の観光交流拠点整備や、小布施の老舗菓子屋の観光施設運営も参画。また、信越トレイルの立ち上げ、運用に関わり、全国のトレイルの普及活動にも携わる。平成28年4月から、北海道大学観光学高等研究センター 特任教授



みちのく潮風トレイルとは、東北地方太平洋沿岸地域に設定するトレイルコースのこと。環境省では、東日本大震災からの復興に資するため、平成24年5月に「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン」を策定しました。森・里・川・海のつながりにより育まれてきた自然環境と地域の暮らしを後世に伝え、自然の恵みと脅威を学びつつ、それらを活用しながら復興することを提唱し、7つのプロジェクトを掲げており、みちのく潮風トレイルはそのプロジェクトのひとつです。

青森県八戸市から福島県相馬市までの900キロを超えるロングトレイルです。